

めざす児童生徒像

- 「自主・自律・活力ある丸中生徒」
- ・主体的に学習や活動に取り組む生徒

・自らを律し、他と協調し、心を通わせることができる生徒

・進取の気性に富み、たくましく生きる心身を持った生徒
- <自主>

<自律>

<活力>

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者			
（学校重点項目）	授業改革		①、②の教員の割合が85％	①	生徒が主体的に学びたくするような授業改革に取り組んでいる。	100%				①②についてはほとんどが意識して取り組んでいる。 ・ペアやグループを作成するなどして、「話す」場面を設定している。学年による差はあるが「聴く」姿勢は概ねできている。 ・タブレットが授業でもっと頻繁に使えるとよい。	・「聴く」、「話す」場面にさらに充実できるように、発問や課題の設定、話し合いの場の設定を工夫していく。 ・ICTを用いたグループ学習も工夫して取り入れる。 ・特別教室でも一人一台の環境で使えるようにしたい。
				②	学びのルールに基づき、「聴く」「話す」姿勢を定着させる場を設定している。	95%					
				③	I C Tを効果的に活用し、主体的に自己表現できる場を設定している。	40%					
				集計							
重点項目	働き方や業務の改善		①、②の割合が100％ ③の割合が90％	①	80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	45%				・授業時数が多い教員が、勤務時間内に業務を終えることが難しい状況である。 ・時間外勤務が80時間を超える教職員が複数名見られる。 ・業務に偏りが見られる。	・すきま時間を効果的に活用できるようにする。 ・仕事の精選を行い、優先順位を設ける。 ・校務分掌や業務の平準化を進め、教職員の協働意識を高める。
				②	職員室の環境改善や文書管理の整理がなされている。	50%					
				③	校務分掌や業務の平準化がなされている。	30%					
	目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
小松市共通重点項目	学校研究		③の教員の割合が年度末に90%	①	学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	85%				・1学期は講師を招聘することはなかったが、2学期以降に行われる予定の研究授業や講師を招聘しての校内研修に向けて、生徒を見とることを目的とした校内研修会を開き、授業整理会の持ち方を教職員間で確認することができた。 ・研究授業では、生徒も教員も積極的に参加でき、すぐに実践できる点から自分の授業に取り入れていきたいという意見も見られた。	・I C Tを積極的に使用している人もいれば、そうでない人もおり、校内研修会や公開授業などで意識を高めていく。 ・ICTを活用した授業実践の交流を行いながら、授業改善に取り組んでいく。
				②	研究主題に迫る目指す授業像（児童生徒像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100%					
				③	教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	85%					
				集計							
	指導力の向上	授業	①、②、⑤の生徒の割合が前期80%、後期90%	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	70.0%	86.0%		-16	・「聴く姿勢」というテーマのもと、授業改善は行われていると思われる。 ・個で考えた後、グループ活動を入れるようにしている。グループ活動中に積極的に意見を交わすようすや、「わかった」「なるほど」という声が聞かれることも多く見られる。が、中には話し合い活動の時間を設けても、周りと交流しようとしていない生徒も若干見られる。 ・近くの席の生徒と意見交流することも大切だが、グループから全体へという活動の中で、広げたり、深めたりしていく必要がある。 ・振り返りシートは効果的であると思うが、ただの授業の感想になってしまっている生徒も見られる。	・話し合いの雰囲気になるように、生徒間の関係づくりや学習に前向きに取り組めるような課題を設定するなどして、授業を作る必要がある。 ・振り返りについては、振り返る視点を明確にしたり、振り返りの良い見本を提示したりする。また、個別にコメントを入れ、個別に対応していく。
				②	児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	80.0%	88.7%		-8.7		
				③	（発表力）児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	80.0%	82.6%		-2.6		
				④	（記述力）児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	75.0%	87.3%		-12.3		
				⑤	児童生徒は、友達と話し合うとき、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて（聞いて）、自分の考えを持つことができる。	85.0%	90.1%		-5.1		
				⑥	児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	85.0%	88.7%		-3.7		
				集計							
	学力の定着	学力調査	①の割合が中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	①	学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	75.0%				・学力の重点目標や具体的な取り組みについて職員会議や校内研修会等で確認してはいるが、教科部会の時間を十分取れていない。 ・1学期末に運営推進委員会や職員会議で学校力向上ロードマップの確認ができなかった。夏休み中に行う予定。 ・旧6年担任と1年担任で小中連携会を設けた中で、学力についての課題を共有した。	・教科部会を適宜行い、共通理解、共通実践を行う。 ・学校力向上ロードマップの検証については、学期ごとに行い、適宜修正していく。 ・学力調査の分析を連絡会等を通して、小学校とも共有していく。
				②	学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	65.0%					
				③	近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	35.0%					
				集計							
		家庭学習	①の生徒の割合が中間・・・70%以上 年度末・・・75%以上 ③の生徒の割合が中間・・・70%以上 年度末・・・75%以上	①	自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	50.0%	69.0%	56.3%	-19	・家庭学習について、できている生徒ももちろんいるが、自分で計画を立てて勉強に取り組めない生徒も多くみられる。自主的な学習内容の質も問われ、家庭との協力が必要。	・家庭学習強化週間を利用した取り組みやリーダー会と連携した取り組みを引き続き行い、内容を充実させてく。 ・見通しをもって学習に取り組めるよう、細やかな声かけを心がける。 ・個別の声かけや家庭への援助をお願いする。
				②	児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている	95.0%					
				③	自学学習など、家庭学習の習慣が身についている	50.0%	73.7%		-23.7		
				集計							